

天ぷらを揚げる

2023. 4. 20

皆さんは、天ぷらを揚げたことはありますか。揚げたことはなくとも食べたことはあるでしょう。以前、仕事である学校に行きました。授業を参観させていただき、事後の協議の時間になりました。私は授業者に、「先生の授業は、若い先生方にぜひ見せたい授業でした。先生はあのような指導技術をどこで、どのように見に付けたのですか。」と聞いてみました。

すると、授業者からは開口一番「先生、私、自分を変えたいんです。自分の殻を破りたいんです。」と返ってきました。きっと苦しかったのでしょう。

「天ぷらを揚げるには40℃の油に何時間つけてもくったりするだけでしょ。ところが170℃にすると、3分かそこらで一気にからっと揚がる。そこまで到達するエネルギー、熱意を出さない限り、いつまでたっても天ぷらは揚がらない。」

もうだいぶ前になりますが、この言葉に出合いました。授業も同じだと思うのです。日々の授業改善は大切です。しかし、長い教員人生の中で、天ぷらを揚げるときは必要だと思うのです。

前述の授業者は、天ぷらを揚げたことがある先生なのだと思います。そして、二度目の天ぷらを揚げるタイミングだったのでしょ。3年後に、再びその授業者の授業を参観する機会がありました。力が抜けて、ごく自然にいい授業になっていました。

皆さんにとって、天ぷらを揚げるときはいつなのでしょう。もし、福島地区中教研の活動の中で、授業を提供する機会があれば、大きなチャンスです。あるいは、夏の研究協議会などの場で、天ぷらを揚げた報告をしてはどうでしょうか。

私は、30代後半のときに、年に5回の研究授業を行い、天ぷらを揚げさせてもらいました。からっと揚がったかどうかはわかりませんが、はっきりと“あの1年”と言うことができます。それまでは、授業というものがわかってはいなかったのだと思います。あの1年のおかげで少しは変わることができたと思っています。皆さんにもそんな1年がありますか。あるいは、これから訪れるのかもしれない

来年度からは、皆さんの研修システムが大きく変わります。今まで以上に、福島地区中教研が、皆さんにとって実りある有意義な研修の場となるよう改善を図っていかなくてはなりません。そして、中教研が、皆さんにとって天ぷらをからっと揚げる場になればと思います。

これは、3月に発行された福島地区中学校教育研究会の会報に載せていただいた原稿である。県の組織もそうだが、県の事務局がある福島地区の活動も様々な意見を聞きながら改善していかなければならない。福島地区の組織や活動が充実しなければ、県の改革はおぼつかない。福島地区も福島県も同時並行で考えていきたい。